



しらすぎ

求めて学ぶ 考えて行う 自ら鍛える

目黒区立第八中学校
学校だより NO. 3
(通巻212号)
令和2年(2020)
5月29日(金)

『はい、笑って』

校長 飯野 博史

新型コロナウイルス関連の緊急事態宣言が解除され、ようやく学校再開に向けて動き始めました。週1回の連絡日に続き、今週は3年生の「分散登校」を、出席番号奇数と偶数に分けて行いました。

久しぶりに教室で顔を合わせる生徒たち、明るい笑顔であふれました。これから順次、登校回数を増やし、在校時間を長くしていきます。感染防止対策として、八中版「これからの新しい学校生活」を作成しました。各学年とも6月最初の登校日に指導します。ご家庭でも確認してください。6月19日(金)から給食を開始し、通常の学校生活に戻る予定です。不安な点、お気づきの点がありましたら、学校までご連絡ください。



■新しい生活様式、新しい学校生活

毎日、電車で通勤しています。緊急事態宣言解除となり、人の数がぐんと増えました。ほとんどの人がマスクをしています。以前は先を争って座ろうとしていた人がいましたが、最近では密着しないために席が空いていても座らずに立っている人を見かけるようになりました。地下鉄でも窓を開けるようになりました。これも新しい生活様式の一つでしょうか。

我が家ではテーブルに3人横に並んで食事をするようになりました。また帰宅時、家に入る前に外の流しで手を入念に洗うようになりました。毎朝、検温することも習慣となりました。細かなことですが生活意識も変わってきました。

これから本格的に始まる学校生活でも、新型コロナウイルス感染防止のために今までとは違った生活様式、考え方が必要となります。

「大きい声で元気に歌おう」→「なるべく大声を出さないようにしよう」

「給食は班ごとに楽しく食べよう」→「前を向いておしゃべりをせず、静かに食べよう」

「グループで相談してまとめよう」→「前を向いて授業を受け、自分で考えよう」

「できるだけ集団で下校しよう」→「集団にならないように一人で帰ろう」

これからの学校生活、戸惑うこともたくさん予想されますが、一つ一つ確認しながら「新しい学校生活」をみんなで作っていきましょう。

■「はい、笑って」

5月12日(火)1年生の第1回連絡日でした。一度も登校しないまま、入学式もないまま臨時休業期間に入ってしまった。きっと不安な気持ちで連絡日に来た1年生がたくさんいたことと思います。新調した学生服も、一度も着ないまま夏服になってしまうのでは…そんな思いから校庭で一人一人の写真を撮影しました。緊張した表情だったので「はい、笑って」と声を掛けると少し柔らかい表情になりました。

新型コロナウイルスが大きな爪痕を残す中、笑ってなどいられない方も多いと思います。しかし、沈んでばかりいるわけにもいきません。「はい、笑って」子供たちと前向きに生活していきましょう。今後とも、ご協力よろしくお願いたします。

5月30日 開校記念日
美しくも哀しい『しらさぎの伝説』



目黒区立第八中学校校歌

佐藤春夫 作詞

大中寅二 作曲

君は聞かずやむさし野の
碑^{ひぶすま}衾あたり伝えい
信義に生きし白鷺の
形見と咲ける野の花ぞ
今わが校の^{しるし}記章なる

君は見ざるや目黒区
竹より直く学ぶ子は
正義と真理愛しつ
命の華を生ききそ
みな^{いそしみ}勤^{いそしみ}労に楽しむを

5月30日は開校記念日です。本校は昭和22年に開校しましたので、今年で開校74年目を迎えます。開校記念日にちなんで、本校の校歌と校章の由来についてご紹介します。第六代大脇憲三校長先生（故人、昭和38年4月～昭和45年3月まで在職）のお話を当時のPTA広報担当の方が聞き取ったものです。（毎年5月に掲載しています）

我が八中の校歌の歌詞、又校章にデザインされた「さぎ草」の由来を、皆様ご存じでしょうか。

さぎ草は高さ15～20センチメートルの多年草の湿地ランの一種で、世田谷区の花に指定されています。昔、碑衾村と言われた八中所在地あたりから、世田谷区奥沢鷺の谷にかけて、田圃のあぜ道にやさしい白い花を咲かせていたと言われております。

この小さな花には次のような悲しく、美しい話が伝えられています。

今から650年程前の室町時代のことです。世田ヶ谷城主の吉良氏が住んでいました。

この城主の奥方は、奥沢城主大平氏の娘でトキワ姫といい、戦国の世に見られた両城主との間をつなぐための政略結婚でした。しばらくは平和な生活が続きましたが、ある時、領地の境界の争いから遂に二人の城主が戦うことになりました。大平方の一隊は吉良方の世田ヶ谷城近くまで攻め込みました。トキワ姫は大変この戦いに心を痛め、講和か救援を頼むほかはないと思われ、以前より可愛がっていた一羽の白鷺を使いとして、脚に手紙を結びつけて放ちました。白鷺は城の上空を二、三回飛び回ると、古巣である奥沢城に向かって飛び去りました。

ちょうど今の八中あたりまで来た時、敵兵に見つけられ、弓で射ち落とされてしまいました。羽を打ち抜かれた白鷺は、白い体を真っ赤な血で染めながらもバタバタと懸命に飛び上がろうともがきましたが、力尽きて息絶えました。

世田ヶ谷城はトキワ姫と白鷺の努力もむなしく敵の手に落ち、トキワ姫も自害しました。

しかし、その後白鷺の死んだ田圃のあたりから一本の草が生え、白い花をつけました。よく見ると白鷺が足に短冊をつけて飛んでいるようです。

これを知った人々は、白鷺の魂が花になって生まれ変わり、自分の主人のために信義に生きようとした姿だと白鷺の死を悼み、さぎ草を形見として大切に育て、またこの話を永く伝えました。

今は九品仏のさぎ園など限られた場所でしか見られなくなったさぎ草ですが、八中が創立された折、校章にデザインされ、また校歌の作詞を依頼された佐藤春夫先生もこの伝説に感銘を受けられ、「信義に生きし、白鷺の形見と咲ける野の花ぞ…」と歌い込まれたそうです。